

イントロダクション

読者の皆さまへ

オルガノグループでは、持続的な企業価値の向上に向けた取り組みを広くご理解いただき、ステークホルダーの皆さまと積極的な対話を深めるため、2020年より「オルガノグループレポート」を発行しています。本レポートでは、中長期経営計画 ORGANO 2030の実現に向けた事業環境や経営戦略を支える財務情報に加え、成長の基盤となる環境・社会・ガバナンス(ESG)などの非財務情報も掲載しています。

読んでいただきたいポイント

- 技術とノウハウを磨き、お客様の課題に真摯に向き合う文化を守りながら、未来を見据えて進化を続ける—当社社長のメッセージ
- 事業基盤強化のための成長投資として、人的資本やIT活用など多方面から進化への取り組みを紹介
- TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に基づく活動状況、新たに策定した人権方針などガバナンス強化の取り組み

本レポートを通じ、当社が水処理技術を通じて社会課題の解決に取り組む姿勢や、マルチステークホルダーの皆さまとの協働によって新たな価値を創出し、社会とともに成長し続ける企業であることをご理解いただければ幸いです。今後もステークホルダーの皆さまとの対話を重ね、適時かつ的確な情報開示に努めてまいります。

【参考にしたガイドライン】

IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」
経済産業省「価値協創ガイドライン」
環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
ISO26000:2010 社会的責任に関する手引き

【将来の見通しに関する注意事項】

本レポートの将来の見通しについての記述は、現時点で入手可能な情報に基づき合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要因の変化により大きく異なることがあることをご承知おください。

情報開示体系(コミュニケーションの全体像)

	株主・投資家向け情報	サステナビリティ情報
報告書	オルガノグループレポート	
	有価証券報告書	
	コーポレート・ガバナンス報告書	
WEB	IRサイト	サステナビリティサイト
対話	決算説明会	株主総会
	個別ミーティング	

IR情報
<https://www.organo.co.jp/ir/#ir>



サステナビリティ
<https://www.organo.co.jp/sustainability/>



目次

イントロダクション

読者の皆さまへ	1
目次	2
経営理念／長期経営ビジョン	3
サステナビリティ方針／重要課題(マテリアリティ)	4
オルガノグループの事業	5
3つの強み	7
ビジネスモデル	9
オルガノグループの歩み	11

オルガノグループの目指す姿

価値創造プロセス	13
トップメッセージ	15
中長期経営計画 ORGANO 2030	21
財務戦略	23
サステナビリティマネジメント	25

オルガノグループの価値向上に向けた戦略

経営資本の強化	27
事業別戦略：水処理エンジニアリング事業	29
事業別戦略：機能商品事業	31
研究開発・技術開発	33
製造拠点	36
海外事業展開	37
新しい顧客価値創出への取り組み	39
人材戦略	41

オルガノグループの事業基盤

ガバナンス	47
環境	59
社会	66

コーポレートデータ

財務／非財務情報	71
連結貸借対照表	73
連結損益計算書／連結包括利益計算書	74
連結株主資本等変動計算書	75
連結キャッシュ・フロー計算書	76
会社情報／外部からの評価・指数への採用	77
ネットワーク(国内／海外)	78



トップメッセージ

当社グループがどのように価値を生み出すのか、中長期においてどのような成長を目指すのか、についての情報を更新・拡充しています。



人材戦略

中長期経営計画 ORGANO 2030の実現とその先の持続的成長に向けて、企業価値の源泉である「人材」の可能性を最大限に引き出すことを人材戦略の中心に据えています。



人権方針を新たに策定

当社の経営理念を実現するには、オルガノグループの企業活動が影響を及ぼすすべての人々の人権を尊重することが重要であるため、人権方針を策定しました。



社名の由来

当社の基幹材でありますイオン交換樹脂は、天然産の無機ゼオライトに対して、有機ゼオライト(オルガニックゼオライト)、略名「オルガノライト」と呼ばれており、これが当社の社名の由来です。

本レポートに掲載されている「エコクリスタ、ビューリック」は、オルガノ株式会社の登録商標または商標です。

イントロダクション

経営理念

オルガノは水で培った先端技術を駆使して
未来をつくる産業と社会基盤の
発展に貢献するパートナー企業としてあり続けます

長期経営ビジョン

付加価値の高い分離精製・分析・製造技術を基に事業領域と展開地域を拡大し、
産業と社会の価値創造と課題解決を推進する

製品・サービスを絶えず提供します

昨日までのやり方を、明日に向けて、今日変える人をつくり、
一人ひとりが働きがいと活力に満ちた企業を構築します

The Power of Purification

サステナビリティ方針

わたしたちオルガノは、ステークホルダーとともに、
未来に向けて持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します

E	S	G
水で培った最適化技術 [※] で、 水環境保全や温暖化防止に 貢献する環境配慮型製品・ サービスを提供します	人権及び多様な価値観・ 個性を尊重し、従業員一人ひとりが 成長し活躍する職場づくりを 推進します	すべてのステークホルダーとの 対話と連携を重視し、 誠実かつ公正な企業活動を 遂行します

※ “水で培った最適化技術”には、水処理に関わる分離・精製、分析技術やエンジニアリングにおける技術の追求と、その組み合わせによって社会のニーズに合致した最適なシステムやサービスを提供するという意味が込められています。

重要課題(マテリアリティ)

暮らしや産業及び事業のために必須の地球環境保
全と事業活動による価値創出に関わるもの

継続的な事業成長の実現

- ① 持続可能な地球環境への貢献
 - ・ 水資源問題への対応
 - ・ 生物多様性の保全
 - ・ 気候変動への対応
 - ・ 環境配慮型製品・サービスの拡充
 - ・ 3R(リユース・リデュース・リサイクル)の推進
- ② 技術力を活かした高付加価値製品・サービスの提供

社会的責任を果たしながら継続的に
事業を行うためのベースとなるもの

事業基盤の構築

- ③ ガバナンス強化とコンプライアンスの徹底
 - ・ 労働安全衛生の推進
 - ・ コンプライアンスの強化
 - ・ 人権の尊重
 - ・ リスクマネジメントの強化
- ④ 多様な人材が活躍し働きがいのある職場づくり
- ⑤ サプライチェーンマネジメントの強化

中長期経営計画 ORGANO 2030

経営理念、長期経営ビジョン、サステナビリティ方針を土台とし、
事業における将来の環境変化を考慮し更新

オルガノグループの事業

オルガノは超純水・純水・水道水・産業排水・下水と幅広い水処理技術を有し、その技術を非水分野にも応用しながら、多種多様なお客様に対してグローバルに事業を展開しています。また、製品開発、設計、施工、販売、納入後のメンテナンスや運転管理まで自社で一貫して対応が可能な体制を整えています。

水処理エンジニアリング事業

半導体工場向けの超純水製造をはじめ、発電所や医薬品工場など多様な産業にオーダーメイドの水処理設備を提供。設計・施工から保守まで一貫対応し、総合水処理エンジニアリング企業として持続可能な社会に貢献する事業を展開しています。



プラント事業



ソリューション事業

機能商品事業

水処理薬品、標準型水処理機器・フィルタ、イオン交換樹脂、分離膜、食品加工材などの機能商品を、製造業、商業施設、医療・研究機関、電子産業など多様な分野に提供。電子産業向け水処理薬品や医療機関向け小型純水装置を中心に、海外展開強化にも取り組むなど、グローバルに事業も展開しています。



水処理薬品事業

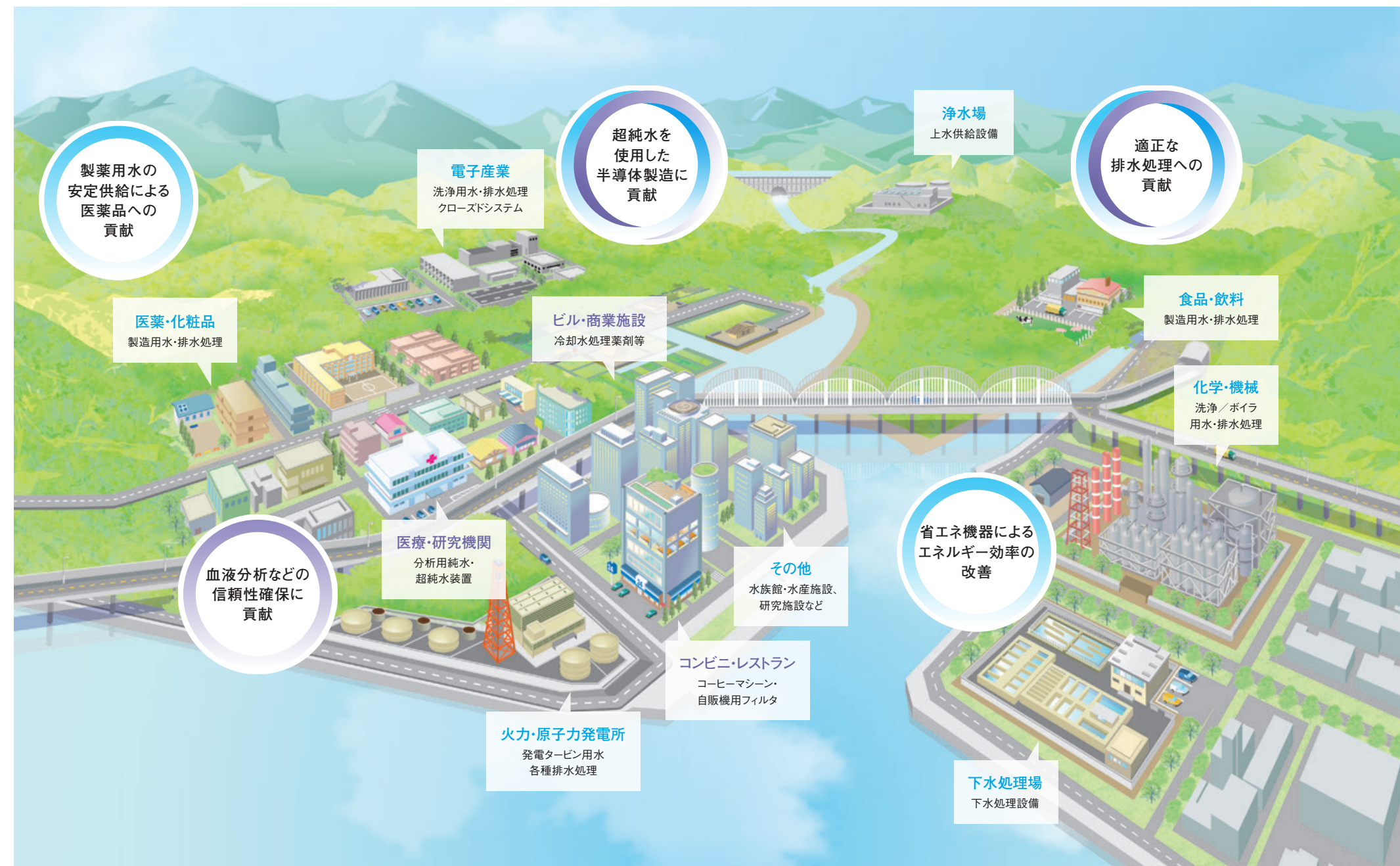


食品事業

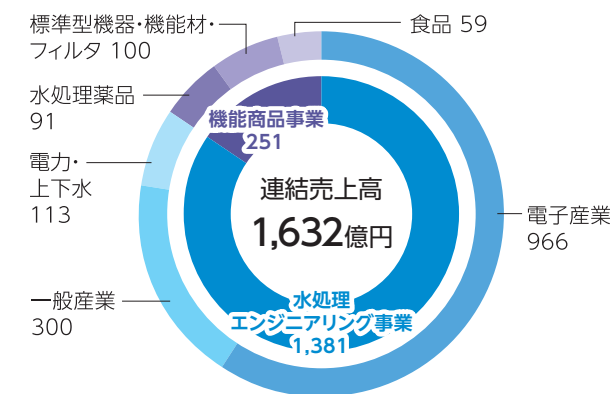


標準型機器・機能材事業

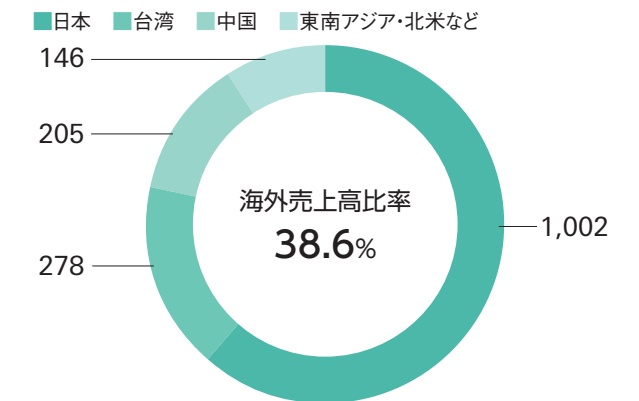
暮らしを支える オルガノの水処理技術



事業別売上高 (単位: 億円)



地域別売上高 (単位: 億円)



3つの強み

創業以来、イオン交換樹脂というイオン成分の交換ができるユニークな素材とこれを効果的に利用する装置について、多種多様な顧客のニーズに応える形で技術開発を重ねてきました。その積み重ねが独自の応用技術の開発にもつながり、オルガノの強みが培われてきました。

3つの
強み

1
高度な
分離精製技術と
分析技術

2
水処理の
総合エンジニア
リング

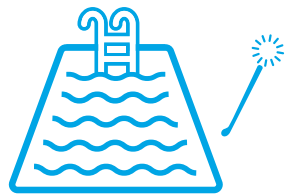
3
産業・生活への
幅広い実績

1 高度な分離精製技術と分析技術

● 分離精製技術とは

分離精製技術は、超純水から排水、各種の溶剤や薬液などさまざまな対象に適用されますが、「不要な成分を分離して除く」と「有用成分を高純度化する」ことがその要です。

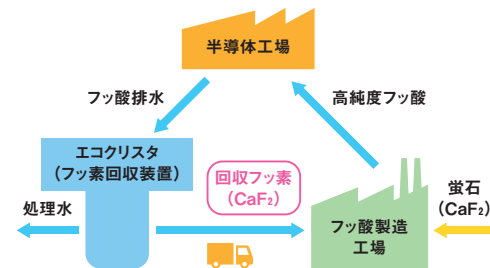
「不要な成分を分離して除く」



不純物濃度
1ppt以下

半導体製造用の超純水に含まれる不純物濃度は1ppt(1兆分の1)以下。オリンピック競泳50mプール(2,500m³)の超純水に、僅か耳かき1さじ(2.5mg)分です。

「有用成分を高純度化する」

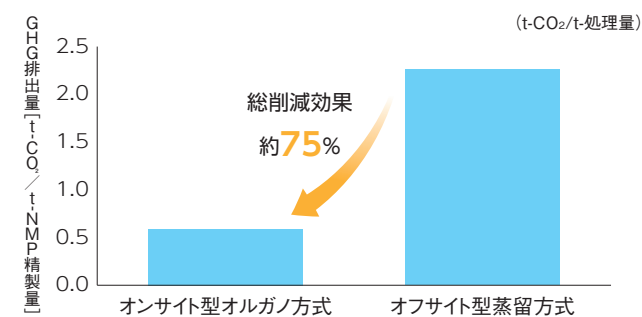


特定成分の純度を上げる技術により、排水中からの有価物回収などに活用されています。(上記は排水中のフッ化カルシウム回収事例)

● 水以外の分離精製（非水分離精製）

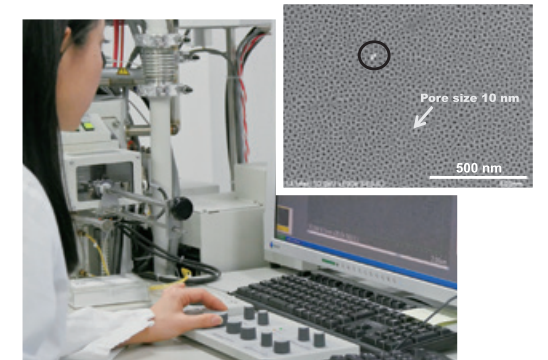
1953年から水以外の分離精製分野に進出。砂糖の精製や脱色、焼酎からの悪酔い成分除去、また現在は、電気自動車などで用いられるリチウムイオン二次電池の正極材製造時に大量に用いられるNMP(N-メチルピロリドン)の回収装置を開発・納入。従来はエネルギーを多用する蒸留法が主流でしたが、当社の膜分離法ではコストが従来比1/7に、またライフサイクルCO₂排出量も約75%削減でき、省資源・省エネルギーに貢献します。

● ライフサイクルCO₂排出量



● 分析技術開発

当社開発センターでは各種の高度な分析によって装置の性能や水質を確認するために最新鋭の分析機器を使っていますが、最先端の半導体製造に使われる超純水中の不純物は、これら分析機器の検出限界を下回るレベルにあります。そのため、当社は分析技術の開発を継続的にを行い、独自開発した膜を利用して世界で初めて10nm(1億分の1メートル)サイズの微粒子を計測することに成功しました(右写真)。新規開発した膜、ろ過技術と連続自動観察技術を用いることで10nm微粒子の分析を実現し、半導体製品の品質・歩留まり(良品化率)の向上に貢献しています。



2 水処理の総合エンジニアリング

● 幅広い対応技術

設備規模	研究機関などで求められる1滴単位の超純水製造装置から、大規模半導体製造工場の洗浄用途で必要となる1時間で1,000m ³ 規模を供給する大型の超純水製造装置まで、幅広い処理容量に対応
水質	用水、純水、超純水の精製から排水、回収、リサイクルまで対応
適用分野	発電所、上下水道などの社会インフラから各種製造業、試験／研究所などさまざまな分野に対応

● 一貫体制とノウハウ・サポート力

水処理装置の新規導入から既存設備の運転管理、改善提案まで一貫して対応。各フェーズで得られる顧客ニーズや新たな気づきを社内でも共有し、技術とサービスの向上を図っています。

また、75年以上にわたる分離精製とこれに関連する技術を開発・装置化し、その運転やメンテナンスの中で生じるトラブルへの対応など一つひとつの経験を元に、顧客ニーズに的確に応えるノウハウを積み重ねてきたことが、当社グループの顧客サポート力の源泉となっています。

▶ 詳細はP.9,10

3 産業・生活への幅広い実績

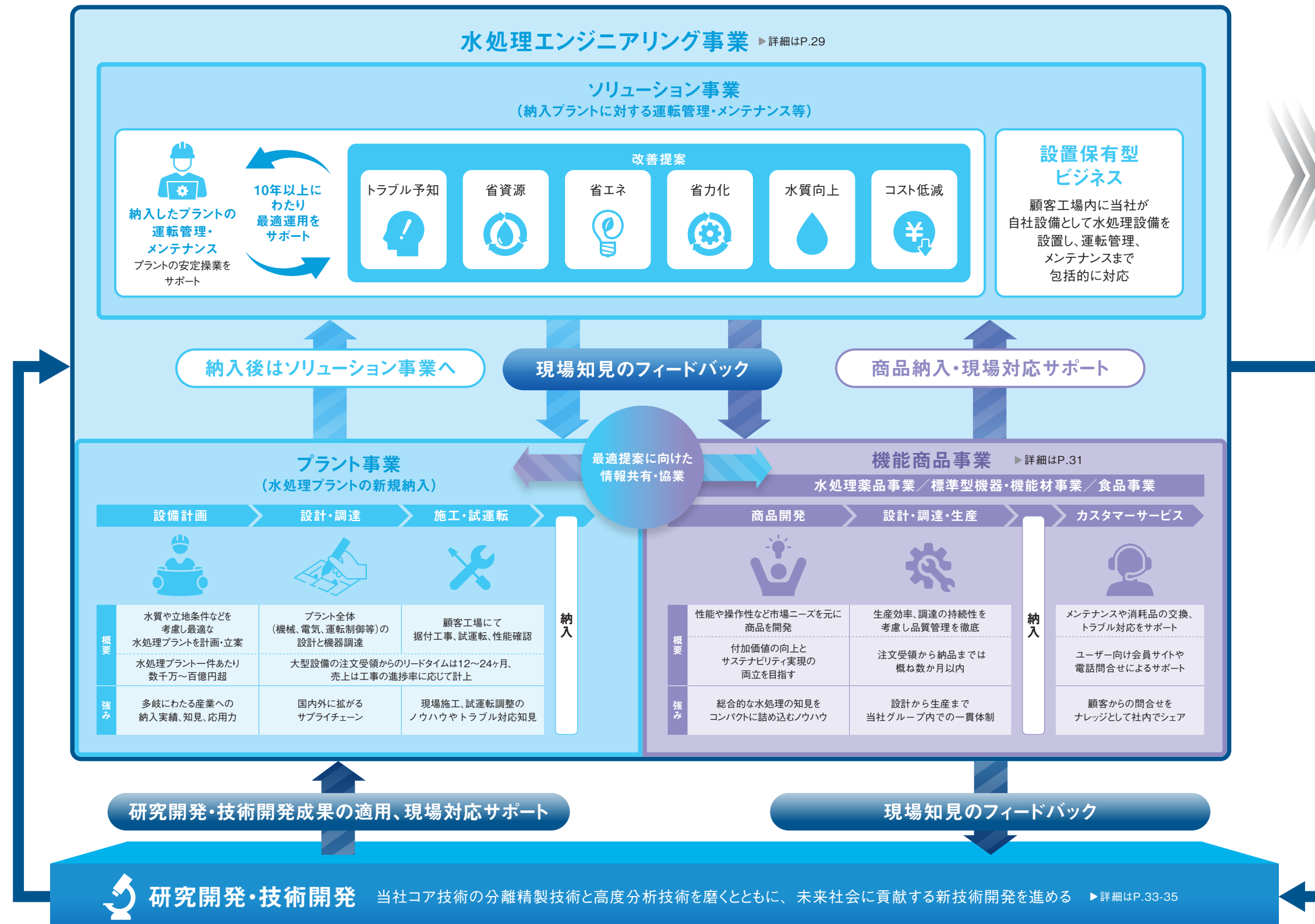
多岐にわたる納入実績から築き上げられた顧客基盤の広さは、未来の顧客ニーズに応える当社の貴重な財産の一つです。

水処理エンジニアリング事業			機能商品事業		
電子産業	一般産業	社会インフラ	水処理薬品	標準型機器・機能材	食品
半導体・パネル・電子部品等	医薬・化粧品、食品・飲料、機械・化学等	火力・原子力発電所、上下水道	各種製造業・ビル／商業施設	医療・研究機関／コンビニ・レストラン	食品・飲料／介護・健康食品

▶ 詳細はP.5,6

ビジネスモデル

超純水や排水処理プラントをオーダーメイドで設計・納入し、その後はメンテナンスや改善提案により顧客工場の安定稼働を長期的に支えます。この水処理エンジニアリング事業と機能商品事業および研究開発・技術開発部門が密接に連動することで、ソリューション事業の高度化と拡大を実現、顧客への提供価値を最大化します。これらにより持続的な成長と安定した収益基盤の拡充を図ります。



企業価値の向上

中長期経営計画

ORGANO 2030達成目標

売上高	2,500億円以上
営業利益率	15%～18%
ROE	15%以上
ROIC	12%以上

オルガノグループの歩み

75年以上にわたり培ってきた技術力

1946~

◎ 社会ニーズ・課題

戦後の日本経済復興に伴い、化学・繊維・製薬・製糖など各種産業においてボイラ用水や純水、顧客製品の精製等の需要が増大

- ◎ イオン交換樹脂を用いて顧客の製品ごとに、糖液精製装置や抗生物質抽出精製装置などを開発

1960~

◎ 社会ニーズ・課題

日本の高度経済成長に伴う電力需要の増大、一方で水質汚濁防止法の成立など公害防止意識が高まる

- ◎ 国内初の沸騰水型原子力発電所向け水処理装置に挑戦し納入、また石油精製や食品工場など産業ごとに異なる排水特性に合わせた排水処理装置の納入実績を重ねる

1980~

◎ 社会ニーズ・課題

エネルギー多消費型から省エネルギー型へ産業構造が転換、半導体市場が急成長、日本の製造業が海外での製造を展開

- ◎ 半導体工場へ超純水装置を多数納入、海外現地法人を設立し顧客の海外工場運営をサポート

2000~

◎ 社会ニーズ・課題

ライフサイクルコストやサステナビリティに対するニーズの拡大

- ◎ 運転管理までを含めた包括的なソリューションサービスの展開、水リサイクル、水以外の精製領域にも進出

1940 1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

※グラフは売上高の推移を表しています。

創業

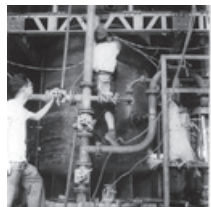
1946年

小型純水装置（無熱蒸溜水製造装置）を開発



1951年

国内初の大型純水装置を納入



1953年

糖特殊液精製分野に展開



1954年

水処理薬品事業を開始



1957年

国内初の電子産業向け超純水装置を納入

1959年

上下水道分野に展開



1959年

食品事業を開始



1966年

発電所向けの大型水処理プラント納入



1984年

医薬品製造分野に展開



1986年

総合研究所開設[戸田]



1991年

半導体向けの納入が拡大



2003年

海外展開ソリューションサービス強化

2005年

包括ソリューションサービス本格化

2005年

開発センター設立[相模原]
(総合研究所(戸田)閉鎖)



2014年

水熱利用システムによる省エネソリューションサービス開始

2018年

新経営理念
長期経営ビジョンを制定

2022年

サステナビリティ方針を策定

2025年

人権方針を策定

創業の精神(創業の原点)

創業者の丸山正武は陸軍時代に飲料水供給用技術としてイオン交換樹脂について研究。戦後、極度のエネルギー不足に陥る中で、燃料や電気が不要なイオン交換樹脂による蒸溜水製造装置を開発。また、その性能を証明することも必要と考え水質計器の開発を進めました。今の最先端半導体工場向け超純水装置開発と分析技術開発に通じる原点がここにあります。

